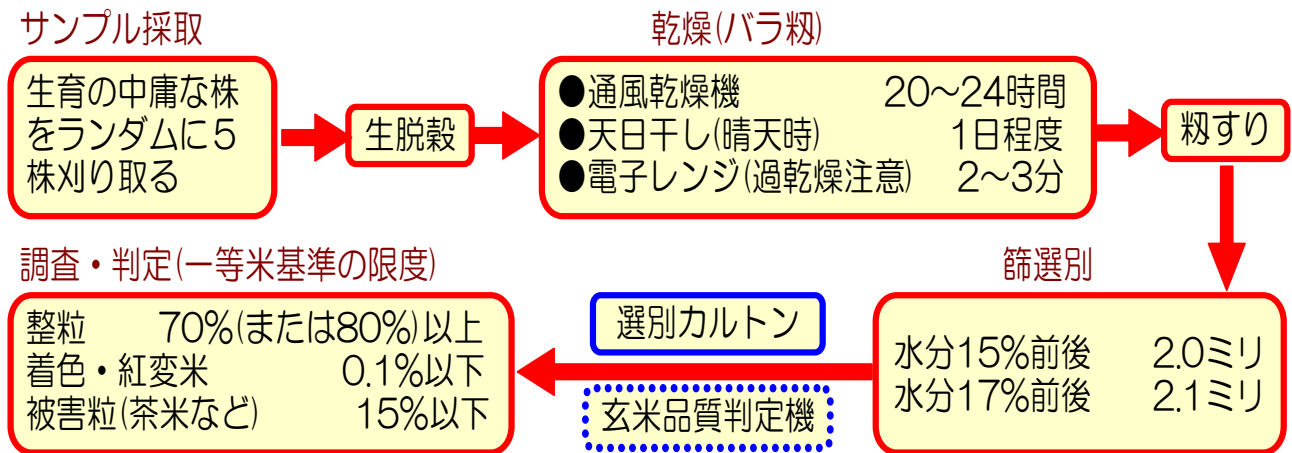


秋の1 玄米判定で適期刈り取りの推進を ～この1年を無駄にしないために～

1 玄米による収穫適期の判定手順



- (1) JA・普及センターなど関係機関と連携して玄米判定を行いましょう。
- (2) 整粒歩合が60%以下の場合は登熟を待って、再度判定を実施しまししょう。
- (3) 褐変穂やいもち病の多発ほ場は別刈りを行いましょう。

2 「ゆめぴりか」の収穫適期について

- (1) 「ゆめぴりか」は刈り遅れによって、被害粒（特に腹白粒・乳白粒）が増加し、玄米品質が低下します(図1)。
- (2) 「ゆめぴりか」は出穂期後の日平均気温の積算値が950~1,000℃に達すると整粒歩合がほぼピークに達し、被害粒歩合が増加し始めるので、この時期が刈り取り適期の目安です(図1)。
- (3) 収穫の前に必ず試し刈りを行い、玄米判定による適期判定を実施しまししょう。

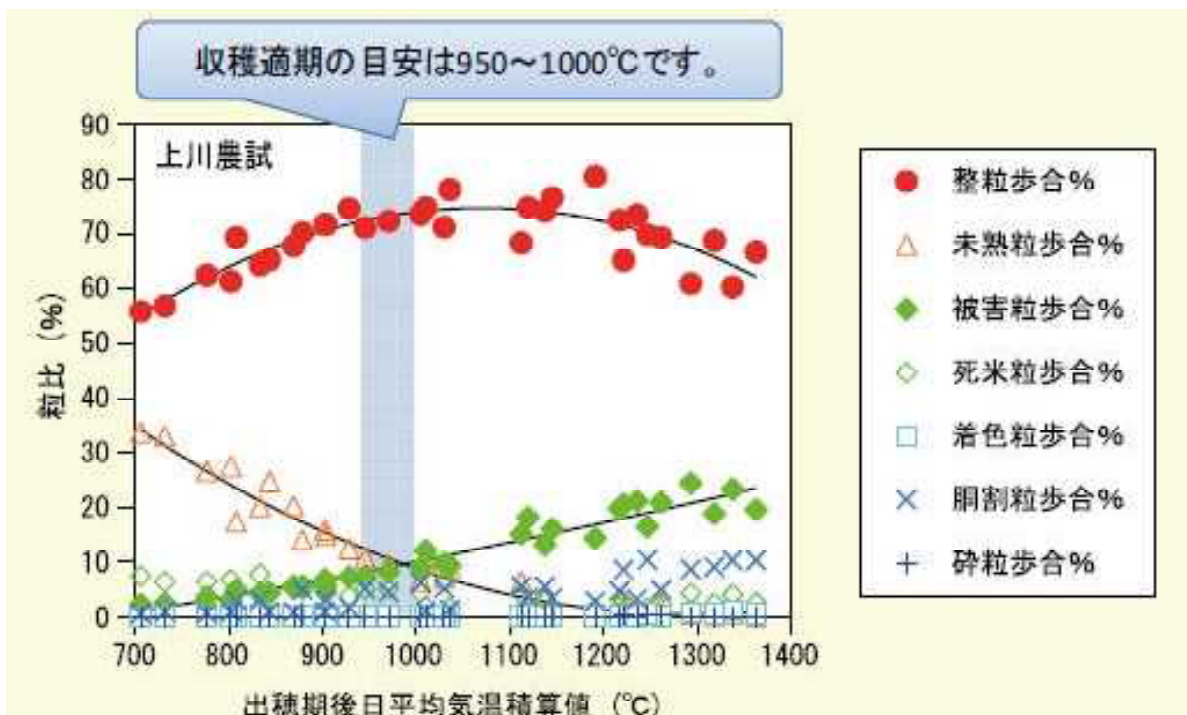
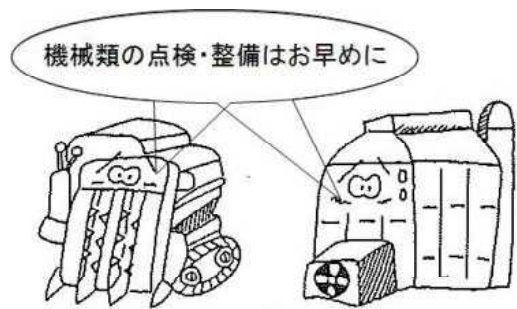


図1 「ゆめぴりか」の収穫時期と玄米品質

3 重要です！！異物混入防止対策

- (1) 食品の安全性が叫ばれる中、産米への石、木・ガラス片、金属等の混入が報告されています。米は食品であるとの認識を持ち、玄米への異物混入防止対策を徹底しましょう。
- (2) 石の混入は、倒伏した稲についた泥から入るケースが多いです。倒伏の激しい場合は別刈りを行うとともに、まず第一に倒伏させない肥培管理を心がけましょう。
- (3) ガラスや金属片は、ほ場に捨てられた空き缶、瓶などから混入します。収穫前にはほ場をよく確認し、事前にそれらを取り除くよう心がけましょう。
- (4) 金属ではネジ等の混入が多いため、ネジが緩んで外れないよう機械の点検・掃除等を念入りに行いましょう。



4 粳乾燥時の作業ポイント

- (1) 粳水分が高い場合、品質低下を考慮して高温乾燥を避けます。高水分の粳は張り込み後、急激な乾燥を避けるため通風乾燥を行い、徐々に熱風温度を上げるようにします。
- (2) 粳水分が25%以上の場合は、熱風温度40℃未満（毎時乾減率が0.5%程度）で乾燥を開始し、粳水分が25%未満に下がった後に、通常の熱風温度（毎時乾減率が0.5%～0.8%）で乾燥します。

5 胴割米発生防止に向けた作業ポイント

- (1) 『胴割米』は外気の条件によって発生状況が変わります。晴天時など空気が乾燥している日は、曇りや雨の日よりも乾燥速度が速くなるため、発生しやすくなります。熱風温度を下げるなどし、ゆっくり乾燥させます。
- (2) 毎時乾減率が0.8%を越えると『胴割米』の発生が多くなるので、急激な乾燥は避けます。玄米判定会などで胴割米発生の指摘があった場合などは特に注意し、毎時乾減率を0.5～0.6%程度にします。

6 二段乾燥について

- (1) 水分のばらつきを緩和する二段乾燥は『胴割米』の発生を防止する重要な技術対策ですので、積極的に取り組んで下さい(図2)。
- (2) また、過乾燥も『胴割米』の発生を多くしますので、玄米水分は14.5%～15.0%に仕上げましょう。

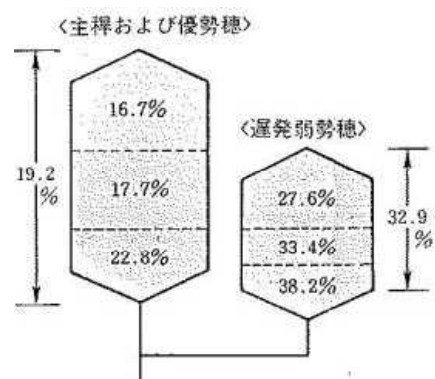


図2 1株内でもこんなに水分にバラツキが！

秋の2 稲わら搬出が低タンパク米生産の基本

～『稲わらの適正処理』と『透排水性の改善』図りましょう！～

1 稲わらはできる限り搬出を！

稲わらで水田表面を覆ったままにすると土壤の乾燥を妨げます。また、春にすき込んだ場合は、水稻の生育期間中に

- ①ワキによる根傷み・初期生育不良
- ②生育後半の窒素放出による高タンパク化等の悪影響を及ぼします。

稲わらは極力搬出して堆肥化し、ほ場に還元することが最善の方策です。

- 稲わらと食味
(野村・稲津、1992年)

処理方法	タンパク
堆肥施用	6.6%
秋すき込み	6.8%
春すき込み	7.5%

※上川農試、褐色低地土

2 稲わらをすき込む場合は秋に ～水田内における稲わら腐熟技術～

ア 排水良好田では秋すき込みが可能です。
収穫後できるだけ早い時期（気温・地温が低くなる前）にチゼルプラウ等で土壤表面に混和するか、ロータリの場合は浅く耕起し分解を促進させます。

イ すき込む前には心土破碎等で透排水性の改善対策を済ませておきましょう。

- 稲わらすき込みと施肥
すき込みの連用年数によって減肥が可能になります。

連用年数	窒素減肥量 (kg/10a)	カリ減肥量 (kg/10a)
1～4	0～0.5	4
5～9	1	
10～	2	

稲わらはC/N比（有機物に含まれている炭素（C）量と窒素（N）量の比率）が高く、そのまますき込んでもしっかり分解されません。そこで、平成18年に羽幌町で実施した腐熟を促進させるための技術を紹介します。

(1) 技術の概略と特徴

- ① この技術は、水田の微生物に尿素などのエサを与え、その働きで腐熟を促進させる技術です。
- ② 作業は収穫後の水田内で行い、資材(尿素とケイカル)を散布しロータリで混和する簡易な技術です。
- ③ 浅く起こすので透排水性は確保され、わらの腐熟が進み量が減少するので翌春の土壤乾燥は良好です。
- ④ 腐熟が進むことで浮きわらが減少し、除去作業が楽になるとともに、収量・食味・品質の向上にも貢献します。
- ⑤ 期待される効果

- ア 乾田化促進
- イ 浮きわら減少と除去作業の軽減
- ウ 生育期間中のワキの減少と根の健全化・初期生育の改善
- エ 玄米タンパクの低下と増収
- オ 地力増進

⑥ 処理作業の工程と注意点

ア 作期中の溝切りなどで排水性を良くしてください。

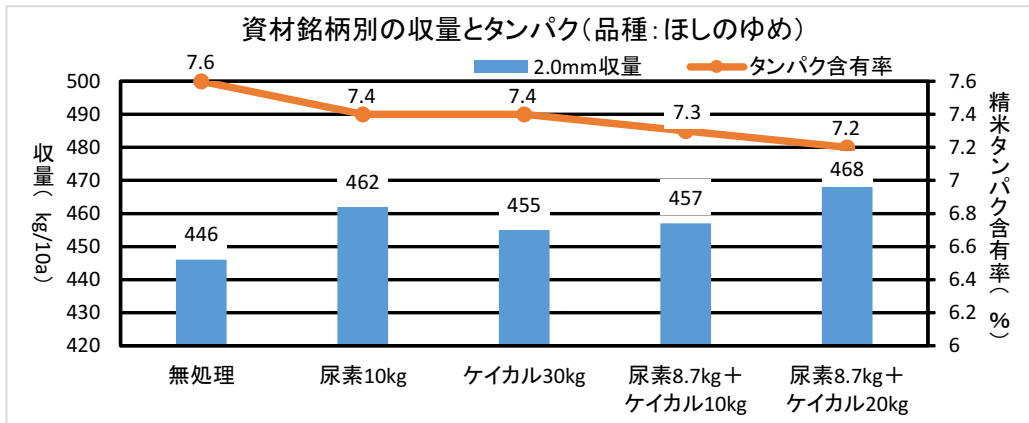
イ 収穫後に資材を散布します。

10a当たりの推奨資材：尿素9kg＋粒状ケイカル20kg

ウ 散布後にロータリで混和します。深さは5cm程度と「極浅く」してください。10cm以上の深さでは翌春の乾きが悪くなる恐れがあります。

エ 透排水性の悪いほ場では「心土破碎」を実施してください。

オ 収穫後はできるだけ早く処理してください（気温や地温が低下する前）。



3 翌年に向けた排水対策を実施しましょう

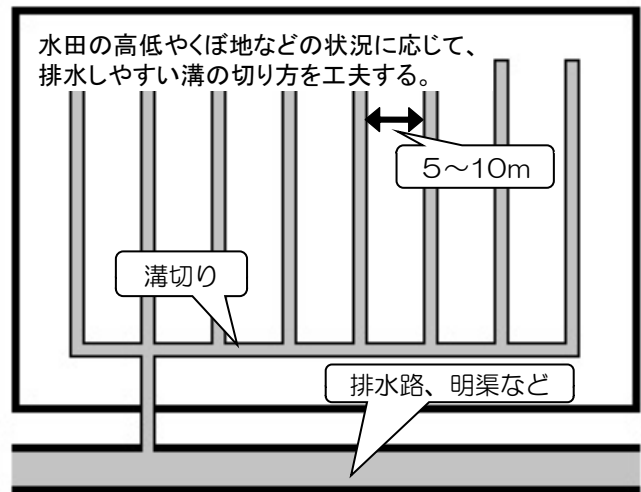
(1) 収穫後は必ず溝切りを

「溝切り」によって、田面の停滞水や融雪水を早期に抜くことは以下の効果が期待できます

- ① ほ場の乾燥を促進
- ② 機械によるほ場の傷みの防止
- ③ 心土破碎の効果を助長します

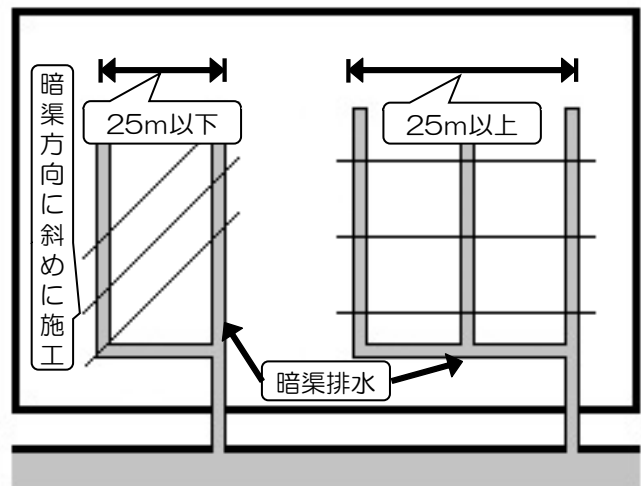
※溝切りを行う際には

- ① 溝に入った土を上げる。
- ② 排水路や明きょに作溝をつなげることが重要なポイントになります。



(2) 透排水性の改善対策を

「心土破碎」を毎年施工して透排水性改善を図りましょう。「ほ場が乾いているとき」に「できるだけゆっくり」施工することが重要です。



For your success



～ 平成30年度留萌版『水稻栽培マニュアル』Ver.1～

執筆者	
留萌農業改良普及センター本所	
主任普及指導員	佐々木 章介
主査（地域支援）	本山 正浩
普及職員	水沼 良徳
普及職員	田中 駿介
留萌農業改良普及センター南留萌支所	
支所長	李家 眞理
地域係長	花岡 伸光
普及職員	山黒 彩菜
監修	
上川農業試験場技術普及室	
上席普及指導員	藤田 雅久